

愛媛大学地域創成研究センター活動報告

—平成 24 年度（2012 年 4 月～2013 年 3 月）—

2012 年 4 月、寺谷亮司教授（当センター長）と和田寿博教授が着任し、8 月に堤純准教授が転出したため、センター教員は 8 名となった。2012 年度は、例年とほぼ同様、2 部門において、下記活動を実施した。

1. 学術文化創造部門

各センター教員は、地域に根ざした研究や教育効果を意識した学生との協同調査を実施している。その成果は本年度に刊行した地域創成研究年報第 8 号にも掲載されている。なお、同年報は、今年度より、冊子体は作らず、電子ジャーナル（WEB 版）化し、過去分を含めて公開することとなった。

共同研究の推進・募集と支援に関しては、「いよココロザシ大学」、「愛媛アカデミア」、「四国遍路と世界の巡礼研究会」などの講演会を支援・後援し、「東温市商工業シンポジウム」などの公開シンポジウムを共催した。

地域の文化・芸術事業の推進としては、プロムナード・コンサート（「カルミア・ストリング・デュオ・メンバーによるバロック独奏ヴァイオリンソナタの夕べ」、9 月 28 日）を実施した。

2. 地域政策部門

同部門におけるシンクタンク機能の推進に関しては、宇和島市との連携協定に基づく宇和島市津島町御槇地区の集落コミュニティ支援事業は、今

年度も継続し、学生とともに盆踊りやふるさと市の手伝いなどを実施した。同様に、上島町魚島での調査・交流事業も継続・実施した。新規では、松山市との「道後温泉活性化ワークショップ開催・運營業務」、「上島町弓削島の風土産業研究」を実施した。

地域貢献事業では、「mit まちなか大学」を開催し、市民に向けた「知」の発信に努めた。同大学の今年度のテーマは飲食文化とし、「食の地デザイン」、「日本酒と肴の相性」を内容とする講演会を実施した。さらに、地域に関わるシンポジウムとしては、11 月 18 日に「震災の記憶をつむぎ共に学び未来へとつなぐ 2012 シンポジウムとワークショップ」を主催した。

例年同様、松山市との共同事業「地域リーダー養成セミナー」（10 回）では、46 名の修了生を輩出させ、地域人材の養成に貢献した。その他、「あいだい博 2012」に参加して当センターの活動をパネル展示したほか、当センターの紹介パンフレットを新作し、四国電力広報誌「ライト&ライフ」にセンター事業が紹介されるなど、センター活動の PR にも努めた。

また、寺谷がアフリカ研究を専門としていることから、愛媛の企業をモザンビークなどに進出してもらうための勉強会を数回開催したことも付記したい。

（寺谷 亮司）